

新興国レポート

新興国株式市場等の動向

新興国市場は米利上げにも関わらず堅調な動き

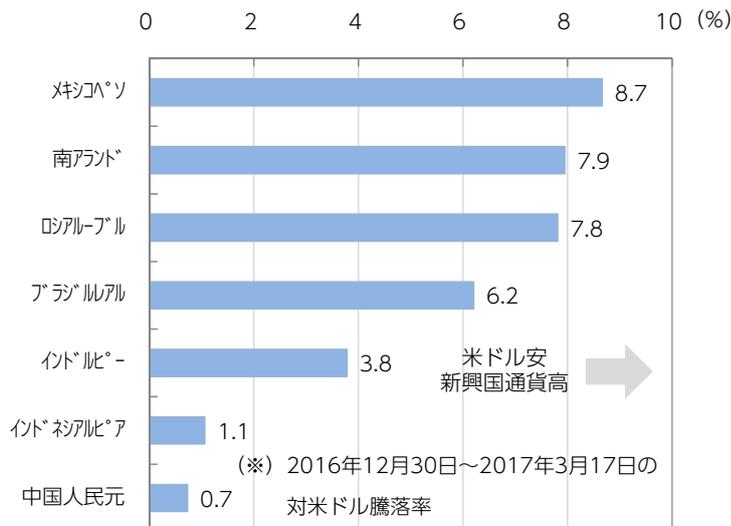
- ▶ 年初来の新興国の株式・REIT・債券市場のパフォーマンス（3月17日時点、米ドルベース）は先進国を上回っている。新興国通貨が対米ドルで堅調なことも寄与。
 - ▶ 政治的なリスクを避ける動き、トランプ政権の政策対応遅延懸念、米利上げペース加速観測の後退等が要因か。
 - ▶ トランプ政権の法人減税等の財政刺激策の詳細が不透明な中、先進国から相対的に値動きが軽いとされる新興国市場への資金シフトが活発化する可能性も。
- ◆ 低金利下で新興国に流れ込んだ資金が米利上げをきっかけに米国に回帰し、新興国の経済・株式市場等が痛手を受けるとの観測もありました。3月14～15日に開かれた米FOMC（米連邦公開市場委員会）では2015年12月の事実上のゼロ金利解除以降3回目となる利上げが決定されました。米利上げにも関わらず、年初から3月17日までの新興国の株式市場等のパフォーマンス（米ドルベース）は先進国を上回っています。新興国通貨が対米ドルで上昇（米ドル安・新興国通貨高）していることも寄与しています。
 - ◆ ①極右政党の台頭・躍進が懸念される欧州の政治リスクを避ける動き、②市場が期待するトランプ政権の法人減税・インフラ投資等の財政政策の不透明感、③イエレンFRB（米連邦準備制度理事会）議長の発言等による米利上げペース加速懸念の後退等が背景になっているものと思われます。
 - ◆ トランプ政権の政策運営や欧州政治に対する不透明感等から、先進国市場がこう着感を強めることも考えられます。その場合、相対的に値動きが軽いとされる新興国への資金シフトが活発化し、先進国と新興国のパフォーマンス格差が更に拡大することも想定されます。

【図表1】 株式市場等のパフォーマンス比較

(2016年12月30日～2017年3月17日の騰落率) (%)			
	株式 (注1)	REIT (注2)	債券(価格) (注3)
先進国	6.4	-0.0	-0.7
新興国	12.0	9.1	3.2

(注1) 先進国株式：MSCIワールド指数（米ドルベース、以下同じ）
新興国株式：MSCIエマージングマーケット指数
(注2) 先進国REIT：S & P先進国REIT指数
新興国REIT：S & P新興国REIT指数
(注3) 先進国債券：シティ世界国債指数（先進国市場）
新興国債券：J.P.モルガンEMBIダイバーシファイド指数

【図表2】 新興国通貨（対米ドル）の騰落率



(出所) 図表1～2はブルームバーグデータを基にニッセイアセットマネジメントが作成

●当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。●当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。●投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。●手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品をお勧めするものではないので、表示することができません。●当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第369号
加入協会：一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会